

平成22年度 吹田を知る【地域福祉編】

「地域の人と協働できる職員育成のための地域福祉活動体験実習」

報 告 書

平成23年（2011年）1月

吹田市 福祉保健部 地域福祉室 福祉総務課

1 吹田市地域福祉計画について

平成 18 年（2006 年）5 月に「いのちとくらしを守り、一人ひとりが輝くまちづくり」をめざして策定した「吹田市地域福祉計画」は、市民の自主的な地域福祉活動を活発化し、行政もその役割を発揮しながら、協働して、市民一人ひとりの地域でのくらしを支えるための仕組みをつくっていかうとするものです。

この計画の推進にあたっては、公と民それぞれの役割を明確にしながら、市民参加と公民協働で進めていく必要があります。

2 吹田市地域福祉計画推進の経過

吹田市地域福祉計画策定後は、①地域福祉計画の周知、②地域福祉活動や行政サービスの周知、③地域福祉について考える場の提供、という3点に主眼を置いて推進してきました。具体的には、地域福祉市民フォーラムの開催、地域福祉読本の作成、市報やホームページなどでのPRを行いました。

地域福祉計画を公民協働で進めていくためには、職員が地域に出向き、住民の皆さんと一緒に地域の課題を考えていくことが必要であることから、①吹田市民生・児童委員協議会の各地区委員会に出向いての地域福祉講座、②吹田市社会福祉協議会地区福祉委員会への全地区でのヒアリング、③吹田市地域福祉計画推進モデル地区の設定などを行ってきました。

しかしながら、地域からは市職員がもっと出向き、住民と一緒に地域の課題を考えてほしいという声が多くあがっています。また、「地域福祉」について職員への理解をさらに深めていくことが、公民協働における「公」としての役割を果たすことにつながることもあり、職員への福祉意識啓発のため地域福祉体験実習を実施するものです。

3 地域福祉活動体験実習実施の目的

- (1) 市民と行政の協働（パートナーシップ）で地域福祉計画をすすめるため
- (2) 地域福祉計画や地域福祉活動について職員への周知を図るため
- (3) 実際に地域福祉活動に参加することで、民の役割である「地域福祉活動の推進」を理解し、地域福祉計画や地域福祉推進における公民協働についての理解を深め、福祉意識の向上を図るため

4 参加者数及び内訳

(1) 参加人数 25名(平成21年度 36名)

(2) 所属別

| | | | | | |
|-------|------------|----|-------|----------|-----------|
| 政策推進部 | 安心安全室 | 1名 | 福祉保健部 | 国保高齢者医療室 | 1名 |
| 財務部 | 納税課 | 1名 | 都市整備部 | 都市整備室 | 1名 |
| 自治人権部 | 男女共同参画室 | 1名 | | 建築課 | 1名 |
| 市民文化部 | 市民協働推進室 | 2名 | | 住宅政策課 | 1名 |
| | 市民課 | 2名 | 建設緑化部 | 道路補修課 | 1名 |
| 児童部 | 子育て支援課 | 1名 | 学校教育部 | 教育総務課 | 1名 |
| | 児童育成課 | 1名 | 地域教育部 | 生涯学習課 | 1名 |
| 福祉保健部 | 福祉総務課 | 3名 | | 中央図書館 | 1名 |
| | 総合福祉会館 | 2名 | 体育振興部 | 北千里市民体育館 | 1名 |
| | 高齢生きがい課 | 1名 | | | (10部20室課) |
| | 障がい者くらし支援室 | 1名 | | | |

(3) 役職別

課長級 1名 課長代理級 2名 係長級 4名 係員 18名

5 事前説明会

●日時：平成22年度(2010年度)9月10日(金)午前9時30分～正午

●場所：保健センター研修室

- 内容：1 吹田市地域福祉計画について(25分)
2 社会福祉協議会(コミュニティソーシャルワーカー)
地区福祉委員会活動について(40分)
3 コミュニティソーシャルワーカーとの座談会(60分)
4 体験実習について説明
5 アンケートについて説明

●配付資料

次第、体験実習参加希望調査票、地域福祉計画説明パワーポイント資料
アンケート、グループ分け図

地域福祉計画概要版、地域福祉読本、地域福祉計画リーフレット

第4期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画概要版

子ども笑顔輝きプラン(次世代育成支援行動計画)概要版、第2期障がい福祉計画概要版

平成21年度(2009年度)CSW事例集、社協だより、社協リーフレット、社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画リーフレット、CSWリーフレット

6 地域福祉活動体験実習への参加

●実施時期 平成22年（2010年）10月から12月

●子育てサロン 8地区 ●いきいきサロン 5地区

●原則として社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー1名、福祉総務課職員

1名が同行

| 活動名 | 月日 | 時間 | 場所 | 参加者数 |
|--------------|-----------|--------|---------------|------|
| 千里新田地区子育てサロン | 10月6日（水） | 10:15～ | 千里山竹園児童センター | 4 |
| 吹二地区子育てサロン | 10月7日（木） | 10:00～ | 吹二地区集会所 | 2 |
| 藤白台地区子育てサロン | 10月13日（水） | 10:00～ | 北消防署 | 1 |
| 西山田地区子育てサロン | 10月14日（木） | 10:00～ | 西山田地区集会所 | 2 |
| 竹見台地区いきいきサロン | 10月15日（金） | 13:30～ | 竹見台地区市民ホール | 2 |
| 吹三地区子育てサロン | 10月19日（火） | 9:30～ | 浜屋敷 | 4 |
| 千三地区いきいきサロン | 10月28日（木） | 10:00～ | 千里山会館 | 2 |
| 千三地区いきいきサロン | 11月5日（金） | 10:00～ | 千里山西デイの上 | 2 |
| 吹一地区子育てサロン | 11月12日（金） | 10:00～ | 内本町コミュニティセンター | 3 |
| 佐竹台地区子育てサロン | 11月15日（月） | 10:00～ | おひさまルーム | 2 |
| 片山地区いきいきサロン | 11月19日（金） | 13:30～ | 片山地区公民館 | 2 |
| 桃山台地区いきいきサロン | 11月26日（金） | 13:00～ | 2B集会所 | 2 |
| 千二地区子育てサロン | 12月8日（水） | 10:00～ | ちさと図書館 | 1 |

延べ参加者数 29名（子育てサロン、いきいきサロン両事業への参加者数 4名）

※以降、「コミュニティソーシャルワーカー」を「CSW」と表記します。

7 地域福祉活動参加報告

※時間については、サロンの開催時間ではなく、実習として参加した時間（準備や反省会への参加も含む）となっています。

| 千里新田地区子育てサロン (千里山竹園児童センター) | | 10月6日(水) 10:15~12:00 | | | |
|-------------------------------|--|---|----|----|---|
| 実習者 | 瀬村 俊(市民協働推進室) | 担当 | 三枝 | 社協 | 西 |
| | 吉岡 直樹(児童育成課) | | | | |
| | 山口 聖人(障がい者くらし支援室) | | | | |
| | 山本 耕平(都市整備室) | | | | |
| 内容 | <p>10時過ぎに到着する。すでに受付などの会場設営はすべて終わっており、親子が何組か集まっていた。昨年度に整備された施設であり、実習者も初めて訪れるとのことであった。まずは、施設の職員の方(本センターは地域の方が指定管理にて運営しているとのこと)と挨拶をし、館内を見学させていただく。どの部屋も新しく綺麗であった。</p> <p>千里新田地区サロンは、特に手遊びなどの催しは行わず、参加している子育て親子を温かく見守るというスタイルで運営されている。この無理のない姿勢が長く活動を続ける秘訣とのことである。サロン活動で使用している部屋は遊戯室1と2を合体させており、かなり広いスペースであった。月齢により多少スペースを区切っており、親子で楽しそうにお話をしていた。参加者同士でお話になり、子どもは放置するといったことはなく、参加者全員で子どもを見守っているような印象を受けた。</p> <p>実習者は当初、どのように接したらよいのかという雰囲気であったが、少しずつ慣れたようで子ども達と接していた。途中から地域の保育士もサロンに来られ、色々と親子のお話を聞いていた。また、お一人だけ男性の参加者がいた。まだまだ、男性の子育てというのは定着していないようである。福祉委員さんに伺うと夫婦でサロンに参加することもまれにあるという。本地区は親子の入れ替わりが激しい地区ということで今回のサロンも31組中15組が新規ということであった。親子にサロンへ参加したきっかけを聞くと、ホームページや市報、子育て支援課より配られた配付物などからであり、市や社協より発行されているものが有効に機能していることが見受けられた。さらに、福祉委員さんに担い手についても伺ったが、足りているということはないようで、どの地域でもこういった悩みは尽きないことを再確認した。〈参加者〉 65名 〈スタッフ〉 5名</p> | | | | |
| | 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・当日の子育てサロンへの参加親子の人数は少なかったが、なごやかな雰囲気の中、子育てサロンが開催されていることを実感できました。 ・地域ごとにそれぞれのカラーがあることに感心しました。また機会があれば、多少泣かれても子どもと遊んでみたいと思います。 ・隣人関係が希薄な現代において、このような育児経験を共有できる場所は非常に重要であると感じました。 | | | |

| 吹二地区子育てサロン (吹二地区集会所) | | 10月7日(木) 10:00~12:00 | | | |
|-------------------------|---|----------------------|----|----|----------|
| 実習者 | 津田 真代(市民課) 中西 絵美(市民課) | 担当 | 服部 | 社協 | 河原 中野 |
| 内容 | <p>10時ごろに吹二地区集会所に到着する。</p> <p>吹二地区は子育てサロンの名称が「ママーズ」となっており、この名称は地域でも定着している。サロンの運営自体も子育て中の親が自主的に運営されており、地区福祉委員はそのお手伝いといったスタイルをとっている。このような運営の仕方は他の地区ではないようである。</p> <p>この日の子育てサロンは運動会ということで、組別対抗の競争や玉入れなど、親子で共に参加する種目が行われた。</p> <p>実習者たちは最初、遠巻きに見ただけだったが、次第に運動会のスタッフとして積極的に参加することにより、サロンの雰囲気打ちとけていった。子どもたちも楽しそうに運動会に参加していた。</p> <p>サロンに初めて参加される人たちは、クチコミや地域の広報紙及び地域のホームページでサロンのことを知り、参加されているとのこと。ここで自分の子育ての体験談を話すことで、それまでに参加されている方からも同感を得て、仲間の輪に入っていけるようになっていく。</p> <p>なかには男性参加者もあり、育児休暇中の人も参加されているとのことだった。他の地区でも、この地区の子育てサロンがよいとの評判があるようだ。</p> <p><参加者> 45名 <スタッフ> 5名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアで運営されていて、準備から当日の進行までかなりの負担があると思われ、頭が下がる思いでした。 ・参加させていただいた吹二地区集会所では、地域の方が中心となり活動されていました。よりよい子育て環境を作るためには「公」、「民」が協働することが大切なことだと感じました。当日は子どもたちも親も楽しそうに参加されていて、一緒に参加できて楽しかったですし、さまざまな活動をされているCSWの方のお話も聞けてとても勉強になりました。 | | | | |

| 藤白台地区子育てサロン (北消防署) | | 10月13日(水)10:00~12:00 | | | |
|-----------------------|--|----------------------|----|----|----------|
| 実習者 | 吉田 明裕 (総合福祉会館) | 担当 | 三枝 | 社協 | 加島 水田 |
| 内容 | <p>藤白台地区の子育てサロンは、普段は地区市民ホールで行っているそうだが、今回は北消防署との協カイベントであった。目玉は消防車や救急車に触れ、乗れることであり、お子さんも自分で立てる子が多く、年齢は比較的高めの印象があった。この日は10月半ばであったが、太陽があがると少し汗ばむ陽気だった。</p> <p>消防署の方の注意事項などの説明があり、その後、福祉委員長から御挨拶をいただき、消防車や救急車の元へと足を運んだ。3つくらいのグループをつくり各エリアにて体験コーナーが行われていた。消防署の方の手際もよく、こういったイベントを定期的に行っていることが見受けられた。コーナーの中には消火器体験コーナーもあり、親子で消火器を持ち、火(ポール)に水をあてるなどの、防火訓練も行っていた。子ども達は当初、おっかなびっくりしている子もいたが、徐々に慣れたようで、消防車や救急車コーナーにて親子とともにしゃいでいた。</p> <p>このイベントは藤白台の端の方から来る親子もいるとのこと、車で来ている親子も何組かいた。普段サロンを行っている藤白台の市民ホールには駐車場が2台あるのだが、地域としては足りないと感じているようだった。また、サロンに参加した男性は一人だけであり、他の地区同様、男性の参加が少なかった。</p> <p>今回の消防署との連絡調整は全て福祉委員さんが行っているとのことであり、地区にて自立した地域福祉活動が推進されていると感じた。</p> <p><参加者> 40組 <スタッフ> 10名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <p>・参加している親子の表情から、このサロンを心から楽しんでいる様子が伺えました。参加人数も多く、藤白台の幅広いエリアから来訪されているということで、子育て情報の周知も図られていると思います。</p> | | | | |

| 西山田地区子育てサロン (西山田地区集会所) | | 10月14日(木)10:00~12:00 | | | |
|---------------------------|---|----------------------|----|-----------|----------|
| 実習者 | 池知 祥子(市民協働推進室) 芦田 宏志(福祉総務課) | 担当 | 大嶋 | 社協 | 新宅 村上 |
| 内容 | <p>今回の子育てサロンは、普段と違って、歯科医師会からの出前講座で、歯磨き教室を予定されていた。本日の参加は、29組であった。歯科衛生士からの歯磨き指導には、どのお母さん方も真剣に質問されていた。</p> <p>このサロンの趣旨でもある「親同士のつながり」については、互いの情報交換をされていたりして、良好に成長しているように見えた。</p> <p>また、サロンの帰りには、仲の良い親同士で、同集会所内にある「ふらっとサロン」に立ち寄られていた。</p> <p>サロン開始前には、CSWより当該地域の福祉活動状況の説明を受けた。</p> <p>当該地域は、南北に長く、活動拠点である西山田地区集会所は比較的南部に位置しているが、この集会所があるおかげで、当地区の福祉活動は活発に展開されている。</p> <p>このように、地域福祉活動の成熟した地域は、CSWとして手助けすることも他地域に比べて少ないようだ。</p> <p><参加者>58名 <スタッフ>5名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しくて、あっという間に終わりました。CSWや実際に活動されている人との話も聞けて勉強になりました。 ・何回かこれまで参加させていただきましたが、活動方法等それぞれの地域で工夫されており、今回も勉強させていただきました。また、住民の地域性もあり、吹田を知る良い機会になりました。来年度もありましたら、是非参加したいと思えます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------------------------------|---|-----------------------|----|-----------|----------|
| 竹見台地区いきいきサロン (竹見台地区市民ホール) | | 10月15日(金) 13:30~15:10 | | | |
| 実習者 | 山内 和子(北千里市民体育館) 中西 肇(道路補修課) | 担当 | 黒木 | 社協 | 加島 水田 |
| 内容 | <p>15分前に竹見台市民ホールに到着、スタッフの方々がサロンの準備を終えたところで、挨拶をしながら待っていると、参加者も10分ほど前からちらほら集まりはじめる。実習に先立ち、CSWよりサロンの概要や地区福祉委員会の活動について、簡単に説明をしていただいた。</p> <p>13時30分にサロン開始。最初にCSWと実習者の自己紹介を行い、その後工作に入る。普段は主に歌や体操などを行っているが、ここ3回ほどは紙パックを使った小物入れを作っているようで、今回のサロンをもって完成することのこと。参加者は各自続きに取りかかり始め、実習者もまた、一緒に混ざりながら本日欠席された方の作品を手がけることになった。談笑をしながら1時間ほどで作品が出来上がる。完成したものは11月に高齢クラブの文化祭で展示した後、スタッフが中にプレゼントを入れて、参加者にクリスマスプレゼントとして渡すのだという。</p> <p>お茶とお菓子で一服してから、残りの時間は全員で歌を歌った。その後、実習者に体育指導員がいたこともあり、前に立ってもらい、脳の活性化に効果のある手指を使った簡単な体操を行った。最後に来月のいきいきサロンの説明を行い、15時10分にサロンが終了。参加者は皆、笑顔で挨拶して帰られた。</p> <p>片付けながらスタッフである地区福祉委員さんから様々な実情を伺った。竹見台地区では市民ホールでふれあい昼食会も行っているが、厨房が非常に狭く毎回苦労しているとのこと。ハード面の課題を抱えながらも、何とか続けているようである。</p> <p>なお、サロン参加者の中にはかつて民生委員をされていたという方もおり、担い手の世代交代によって地域の中での支えあいのつながりが広がっていくものだと感じた。</p> <p><参加者> 11名 <スタッフ> 6名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が楽しく参加しているように思いました。 ・高齢者の方々が身近な場所で気軽に楽しんで参加され、それを支えるスタッフの方の暖かい眼差しが印象的でした。実際に現場に行きその様子や雰囲気を感じることができ有意義でした。 | | | | |



| 吹三地区子育てサロン (浜屋敷) | | 10月19日(火)9:30~11:45 | | | |
|---------------------|---|---------------------|----|----|-----|
| 実習者 | 柴原 聡 (子育て支援課) | 担当 | 黒木 | 社協 | 長谷川 |
| | 梶山 希 (安心安全室) 小山 修平 (男女共同参画室) 黒木 隆介 (福祉総務課) | | | | |
| 内容 | <p>吹三地区の子育てサロンは子ども達の遊び場と親同士の交流の場の提供を目的としており、特別なプログラム等は無く、スタッフは見守りを第一としている。会場である浜屋敷の庭にはミニ滑り台やミニブランコ、ボールプールなどが広がり、また部屋の中にも多彩なおもちゃが用意されている。こういった遊具などは、寄付なども含めスタッフの持ち込みによって準備しているもので、そのためスタッフは早い時間からサロンの準備をしているようである。ところで、吹三地区他地区に比べて男性のスタッフの割合が多かったことが印象的であった。これは地区福祉委員だけでサロンを運営するのではなく、民生委員や高齢クラブの方などにも参加を募ったりして、サロンに協力してもらっているとのこと。</p> <p>10時のサロン開始に合わせて参加者が集まり始める。浜屋敷の特性を活かし、建物の内外を使って展開していることもあり、開放感のなか子ども達はのびのびと遊び、お母さん方も子ども達を遊ばせながら、親同士で雑談や情報交換をしながら交流を深めている。実習者もその様子を見守ったり、一緒になって遊んだりしながらサロンを楽しんでいた。スタッフは子ども達と遊ぶ傍ら、時には子育ての先輩として相談に応じたりしていた。</p> <p>サロンではスタッフである福祉委員さんがアコーディオンを演奏したり、途中で音楽に合わせて親子で手遊びをしたりと、終始楽しい雰囲気です。最後に誕生月の子にはお祝いとして、バースデーメッセージ入りの写真と手製の首飾りがプレゼントされサロンは終了した。</p> <p>短い時間でありながらも非常に内容の濃いもので、実習者の中には機会があれば今度は自分の子どもを連れて参加者として来たいと言う方もいた。</p> <p><参加者> 33組 71名 <スタッフ> 15名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・予想以上の規模で驚きました。子どもたちを地域全体で見守り、育てられている感じで、とても理想的な環境だなと感じました。この活動をとおしてできた関わりが、普段のコミュニティのつながりに続いていくのだと思います。 ・スタッフとして男性の方が多く参加されていました。子育てに慣れている女性の方はもちろん、男性もそれぞれの得意分野を生かして、楽しそうに働いておられたのが印象的でした。 ・たくさんの親子が子育てサロンに参加されており、驚きました。親も子も仲間ができており、良い交流の場になっていると思いました。 | | | | |

| 千三地区いきいきサロン (千里山会館) | | 10月28日(木) 10:00~12:00 | | | |
|------------------------|---|-----------------------|----|-----------|----|
| 実習者 | 和田 亜由美 (国保高齢者医療室) 松尾 尚子 (高齢生きがい課) | 担当 | 三枝 | 社協 | 野田 |
| 内容 | <p>千三地区では自治会ごとにいきいきサロンが行われているとのことであった。前回は介護保険制度についての勉強会を行い、今回はハーブに合わせてみんなで歌を歌った。残念ながら男性の参加はなかった。1曲歌を歌い終わると、その歌について「みなさん知っていますか？」などの声かけを行い参加者同士で会話を楽しんでいた。歌を歌う合間に、お茶もいただきつつ、あっという間に1時間が経過した。</p> <p>歌の後はみんなで輪になって、健康体操を行った。足の調子が悪い方には福祉委員が気をつかい「休み休みやってね」と思いやりのある言葉をかけていた。また、体操を教えている方が常に笑顔であり、参加者も自然と笑顔になっているように見受けられた。</p> <p>体験実習を終えたあと「また来てね」と声かけをしていただいた。今後も職員の体験実習を実施していくことや、地域福祉活動に、様々な世代に参加できるような仕組みづくりが求められていると感じた。</p> <p><参加者> 13名 <スタッフ> 4名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の現状を知ることができ、現場を見ることの大切さを改めて感じました。出席者が固定していること、男性の参加が少ない(ない)ことなど、活動における課題もわかり、所属部署における事業との類似点でもあることから、対策を考えていきたいと思っております。 ・参加者とスタッフの年齢が近く、自主的なサークル活動のような印象を受けました。地域活動の高齢化を感じました。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|----------------------|----|-----------|---|
| 千三地区子育てサロン (千里山西デイの上) | | 11月5日(金) 10:00~12:00 | | | |
| 実習者 | 三宅 裕子(総合福祉会館) 桑名 裕子(中央図書館) | 担当 | 大嶋 | 社協 | 西 |
| 内容 | <p>本日は、手芸教室で、来年の干支のウサギが製作されていた。</p> <p>当手芸教室は、古くから取り組まれており、当該地区の高齢者だけでなく、転居された後の遠方からも来られていた。また、90歳を超えておられる方も参加されており、幅広い年齢層の参加が見受けられた。</p> <p><参加者>9名 <スタッフ>17名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が担当している地域なのですが、話を聞くだけで活動の実際を見る機会がなかなか設けられず、今回、CSWのよくわかる説明も受けながら体験することができ、地域のことがより一層理解でき業務に生かしたいと思います ・お世話役の方、参加者の方がとても楽しそうに文字通り「いきいき」されていたのが非常に印象的でした。地域、御近所での人間関係づくりに、考えさせられました。 | | | | |

| 吹一地区子育てサロン (内本町コミセン) | | 11月12日(金)10:00~11:00 | | | |
|-------------------------|--|----------------------|----|----|---------|
| 実習者 | 中西 康朗(住宅政策課) | 担当 | 黒木 | 社協 | 西 玉井 |
| | 石田 真葵(建築課) | | | | |
| | 笹嶋 裕子(生涯学習課) | | | | |
| 内容 | <p>15分前にサロン実施場所である内本町コミュニティセンターに到着。サロン開始に先立ちCSWより子育てサロンについて、地区福祉委員会について、地域福祉活動とそれに対する市や社協の関わり方について等、簡単に説明を受ける。また、スタッフである地区福祉委員の方々とも挨拶を交わし、参加者が来るまで待機する。</p> <p>10時になると参加者が来始める。吹一地区の子育てサロンは、吹一保育園の保育士や退職した元保育士の方にも来ていただき、遊びのプログラムを提供していただいている。また、場所が確保できないときは、保育園を使わせてもらうこともあるようで、保育園と密着したサロンづくりが特徴である。今回は小麦粉粘土を作り、それを使って親子で粘土遊びを行った。通常の粘土と違い、小麦粉と水と油だけで作られたものなので、万が一子どもが口に入れてしまっても無害なのが利点なのだという。また、着色する際も食紅を使うなど、口に入れてしまうことを見越した配慮を心がけているとのこと。子ども達は見慣れない物に最初は戸惑ったり敬遠したりしていたが、お母さんが触って見せたりすることで少しずつ馴染んでいった。</p> <p>粘土遊びが終わると今度は全員で大きな輪になって座わり、保育士主導による歌に合わせた親子のリズム遊びを行いサロンは終了。サロン内で教わった親子のコミュニケーションは、なかには自宅でも簡単にできるものもあり、親同士だけでなく親子のつながりを深める場としても、サロンが大きな役割を果たしていると感じた。</p> <p>普段は概ね10組ほどの参加者が来られるとのことだが、今回はいつもと異なる曜日に開催されたこと、また天候不良も重なって参加者は少なめであった。実習者も不慣れなこともあり最初は様子を見守っていただけであったが、時間が経つにつれて徐々に溶け込んでいき、サロン全体の雰囲気もアットホームなものになった。〈参加者〉 3組6名 〈スタッフ〉 6名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動を知ることができて非常に有意義でした。地域のコミュニティづくりの現場を体験できてよかったです。 ・子育てサロンに参加させていただきましたが、スタッフの方が子どもたちが楽しめるよう遊びを工夫されていてすごいなと思いました。子どもたちと一緒に遊んで自分自身も楽しかったです。 ・小さな子どもやお母さんとふれ合うことがなかなかないので、貴重な機会をいただき楽しかったです。 | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------------|---|-----------------------|----|-----------|----|
| 佐竹台地区子育てサロン (おひさまルーム) | | 11月15日(月) 10:00~11:30 | | | |
| 実習者 | 中西 肇(道路補修課) 三宅 裕子(総合福祉会館) | 担当 | 服部 | 社協 | 加島 |
| 内容 | <p>佐竹台地区子育てサロンは、「おひさまルーム」という場所で行われている。ここはマンションの施主より、子育て支援活動の拠点施設に使用してほしいとの申し出があり、1階1戸分のスペース提供を受け、平成22年4月よりオープンした。小さな子どもたちが遊ぶところでもあるので、それに関する配慮もされており、床に段差はなく、床自体にはクッション床が使用されていた。当日は「佐竹台スマイルプロジェクト」(おひさまルームの使い方を地域で考えるプロジェクト)の一員である大阪大学の大学生が作成した遊具もあり、子どもたちも大変喜んでいました。</p> <p>この子育てサロンは、参加者が毎回、何かの企画をして、それを運営していくといった方法は採っていないが、子連れの母親たちが集まり、子育ての話などをするかたちをとっている。途中、南千里保育園の保育士さんによる紙芝居や手遊びの紹介があり、子どもたちの楽しそうな声が絶えなかった。</p> <p>参加者たちは、最初は遠巻きに見ていたが、子ども達と遊ぶことにより、次第に打ち解けていった。</p> <p>サロンに来られている人の中には、今回初めて来られた方もおられたため、そのきっかけを尋ねてみると、「以前からこのサロンに来ている友人に誘われて来ました」とのことだった。今後は、今回初めて来られた方たちが友人を誘うことにより新しい人が来るようになれば、子育てサロンはより浸透していくのではないだろうか。</p> <p>子どもたちは1歳未満の子が多かったのであまり動き回るといことは少なかったが、子どもたちの笑い声などが絶えず、終始にぎやかだった。</p> <p><参加者>20組 <スタッフ>3名</p> | | | | |
| 実習者の声 | ・参加者が楽しく参加しているように思いました。 | | | | |



| 片山地区いきいきサロン (片山地区公民館) | | 11月19日(金) 13:30~15:00 | | | |
|--------------------------|---|-----------------------|----|----|----------|
| 実習者 | 辻本 勝彦(納税課) 丸田 佳代(教育総務課) | 担当 | 服部 | 社協 | 樋口 月橋 |
| 内容 | <p>13時30分より少し前に片山地区公民館に到着。サロンが行われる部屋に移動すると、すぐに1人1脚ずつ椅子を用意することになった。</p> <p>この日は片山体育館の指導員の方が来られ、椅子に座っての体操が音楽にあわせて行われた。指導員の言われたとおりに指や足を動かすことにより、自分の頭で考え、そして体を動かすということが同時に行われ、そのことが脳も体も活性化させ、これを毎日続けることが老化防止にもつながることを教えられた。</p> <p>手だけの運動なら言われたとおりにできる人も、足による動作も組み合わせると、それを同時にこなすことが難しく、そのことにより会場のあちこちで笑い声があふれていた。実習者たちもこのあたりは難しかったようである。</p> <p>1時間ほどで体操は終わり、片付けの後、懇談会が行われた。</p> <p>ここのサロンは複数の会場で行われており、公民館などの施設及び自治会などの団体等の協力を得て、季節の行事を取り入れるなどの工夫をされている。今回は初めての参加者が多かったそうだが、それはある一つの自治会の会長が自治会員に呼びかけを行ったことによりその自治会の方が多く参加されていたとのこと。参加者、スタッフともに同じ人が参加、運営されており、スタッフが少なく、参加者等に偏りが生じており、男性の参加者が少ないことも課題であるとお話されていた。「これからも自治会などの各団体と連携を取り合ってサロンを活性化していきたい」と課題に向けて取り組まれるとのことだった。</p> <p><参加者数>20名 <スタッフ数>2名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・他課の職場の仕事の空気に少しでも接することができ、またどういう形で市民に接しているのかがよく分かり普段の仕事では得られない職務を体験できました。 ・普段なかなか行くことのできない行事でしたので大変有意義でした。 | | | | |

| 桃山台地区いきいきサロン (2B 集会所) | | 11月26日(金) 13:00~15:00 | | | |
|--------------------------|---|-----------------------|----|----|----------|
| 実習者 | 芦田 宏志(福祉総務課) 黒木 隆介(福祉総務課) | 担当 | 黒木 | 社協 | 加島 水田 |
| 内容 | <p>サロンに来られた参加者は名簿に名前を記入すると、まず体重と血圧を測定する。ご自身で健康状態の推移を知ってもらうために、毎月測った結果は個人シートに記入し、最終的には本人にお返しすることになっている。</p> <p>13時になり、まずCSW及び実習者が自己紹介をしてサロン開始。はじめに、「いきいき体操」や、玄米を詰めた重りを持って歌に合わせて体を動かす「玄米にぎにぎ体操」、参加者の一人にアコーディオンを弾いてもらい、その伴奏に合わせての合唱「紅葉」「里の秋」「虫の声」を全員で行う。ここまでは毎月恒例のようで、足腰の弱い参加者は椅子に座って体操を行うなど、慣れた様子で柔軟にこなしていた。</p> <p>また、今月は牛乳パックを貼り合わせて小さな籠を作ったり、チーム対抗でのビンゴゲームを行い、最後にティータイムを長めに30分ほどとり、15時になったところでサロンは終了した。こちらのサロンは全員参加を基本方針としており、時にはスタッフやCSWも参加者に混ざってレクリエーションを行ったりしている。実習者も談笑しながら一緒になって体操や工作などを楽しんでいた。</p> <p>今回のサロンには桃山台地区福祉委員会の委員長もいらっしゃったので、活動についていろいろお話を伺うことができた。桃山台地区では今回実習させていただいた2B集会所をはじめ、地区内3箇所の集会所でサロン活動が展開されており、また、スタッフ・参加者ともに重複することはなく、それぞれ独立した形で運営されている。これは集会所の利用条件や、近場にサロンを設けることで気軽に参加できるように、ということからだそうである。一方で、ふれあい昼食会は地区全体で1か月に1回開催しているが、毎回100名に上る参加者の食事を作らなければならないという苦労もあり、地区福祉委員会だけでなく、防犯協議会、連合自治会など諸団体も加わり、月替わりに調理当番を担当しているとのこと。</p> <p>地区内のサロン活動が3箇所に分かれていながら、参加者数も決して他の地区に劣ることはなく、雰囲気も小地域活動ならではの、独特の和やかさや親密さを見て取ることが出来た。</p> <p><参加者> 17名 <スタッフ> 6名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <p>・福祉関係部署にいても、現場の生の活動の様子に触れる機会は少なく、今回のような体験学習は貴重な経験でした。地区福祉委員さんをはじめ、スタッフの方も非常によくしてくださり、楽しむことができました。</p> | | | | |

| 千二地区子育てサロン (ちさと図書館) | | 12月8日(水) 10:00~12:00 | | | |
|------------------------|---|----------------------|----|----|---|
| 実習者 | 市場 千嘉子(福祉総務課) | 担当 | 三枝 | 社協 | 西 |
| 内容 | <p>今回の催し(クリスマス会)は地域子育て支援センター(保育所)、幼稚園、地区福祉委員会と民生・児童委員協議会の合同行事のようだった。</p> <p>ベビーカーで来られる親子も多く、そういった場合ちさと図書館の東館へ運んでいた。催しが始まる前から多くの親子が待っており、保育園の方が受付をしていた。</p> <p>クリスマス会の準備のため多目的室の様式替えをお手伝いする。ごさをしいたり、壁面のカーテンに可愛いサンタやトナカイの絵を飾った。</p> <p>イベントが始まる時間が訪れ、子どもたちの入室が始まると、その勢いは止まらず、あっという間に多目的室は親子でいっぱいになってしまった。それでも入ることのできない親子がたくさんいたので何とかつめて部屋に入ってもらった。当初はマイクを使用しないで手遊びや紙芝居を行っていたが、声が届かず、しばらくざわざわしていた。その後、急遽マイクが用意され、会場全部に声が行き渡ると親子は集中したようだった。その後は、クリスマスにちなんだ歌、音楽、ダンスなどを楽しんでいた。サンタさんが来ると子どもたちも喜んでいただようだった。</p> <p>子どもたちの年齢層を見ると、0歳~5歳くらいまでの幅があった。かなり幅広い層があり、保育士さんのお話によるとプログラムの編成が難しいとのことであった。また、始まってから30分程度経つと子どもたちは人の多さに耐えられないようだった。昨年も盛況だったそうだが、今年はさらに参加者が増えたようでスタッフの方々も驚いていた。小学校区を越えての参加者も多いようで、親子同士のネットワークのつながりから千二地区では年々子育て関連の催しの参加者が増加傾向にあるそうである。</p> <p><参加者>300名 <スタッフ>15名</p> | | | | |
| 実習者の声 | <p>この地区では平成19年度から子育てサロンを開催しています。今回は、クリスマス会で、平成21年度からは地域子育て支援センターと合同で開催するようになったとのこと。今年は2回目ということもあって、市民への周知もされ、参加者数が大幅に増えたようです。おおむね親子で300人。世帯数では130世帯でした。準備からいっしょに参加させてもらい、感じたことを述べさせていただきます。</p> <p>たくさんの親子でにぎわったクリスマス会でした。子どもは、0歳から2歳ぐらいが多かったように思います。この地域は、保育所入所率が低いので、家庭での子育ての比率が高いです。千里山保育園の保育士さんから聞いたのですが、この地域だけではなく、遠方の地域からも親子で参加される人も多いか。</p> | | | | |

そういえば、浜屋敷で行われている毎年のおもちつきでも、遠いところからグループで参加している人が多かったです。親子で気軽に出かけられる場所があまりないのだと思います。特徴的なのは、グループで情報交換してから参加するということ。逆にいえば、ひとりでぽっと参加するのは難しいということ。最近の若い人の傾向がここでも出ていえます。知り合いがいなくて、子育てに悩んでいる人に参加してもらうためのしかけづくりが必要です。

今回は、地域子育て支援センターが中心となった子育てサロンでした。内容がクリスマス会ということもあって、プロの色が濃く出ていました。手遊びやハンドベル、サンタさんの登場と子どもたちをぐっとひきつける。普段の子育てサロンは、ゆったりと親同士が交流している時間が多く、子ども同士というよりは、親同士の交流に重きを置いています。いろんなバージョンの子育てサロンがあってもいいと思います。その中から参加者にとって必要なもの、求めているものが手に入ればいいなと思います。

自身の経験でいえば、最初に子育て仲間ができるのは産院です。住所地で出産すれば、その仲間はその後も続きます。次に会うのは、4か月児健康診査(すくすく赤ちゃんクラブ)です。事業実施している保健センターでは、住所地ごとにグループに分かれて交流する時間を設けているので、ここでの仲間も続いていきます。その次は、地域子育て支援センターが実施する育児教室や育児相談・園庭開放事業です。保育園や幼稚園に入園するまでは、このようなしかけがされてます。情報を求めればつながっていくはず。問題は、情報を求めない、つながろうとしない、つながることができないケースだと思います。

民生委員・児童委員さん、地区福祉委員さん、地域子育て支援センター職員と、かかわる人が増えていけば、どこかでつながりをもつことができます。薬局さん、コンビニの店員さんと、地域住民だけでなく事業所さんもかかわっていけば、もっともつつながっていきます。大切なのは、人を思いやる気持ちです。手荷物を持ってあげるような、座席をゆずってあげるような、ちょっとした気持ちがあれば、だれかとどこかでつながっていきます。地域福祉計画がそんなちょっとした気持ちを後押しするような一助になればいいなと期待しています。

8 参加者のアンケート結果

(1) 事前説明会について

| 実施時期 | | 時間 | | |
|------|-----|----|-----|----|
| 適当 | 不適当 | 短い | 適当 | 長い |
| 21人 | 1人 | 1人 | 21人 | 0人 |

| 内容 | | |
|--------|------|---------|
| よく分かった | 分かった | 分からなかった |
| 8人 | 14人 | 0人 |

○事前説明会に参加する前の認知度

| 地域福祉計画 | | | 社会福祉協議会 | | |
|--------|-------|--------|---------|-------|--------|
| 知っていた | 名前だけ | 知らなかった | 知っていた | 名前だけ | 知らなかった |
| 8人 | 10人 | 4人 | 12人 | 8人 | 2人 |
| 36.4% | 45.5% | 18.2% | 54.5% | 36.4% | 9.1% |

| 地区福祉委員会 | | | CSW | | |
|---------|-------|--------|-------|-------|--------|
| 知っていた | 名前だけ | 知らなかった | 知っていた | 名前だけ | 知らなかった |
| 5人 | 10人 | 7人 | 6人 | 5人 | 11人 |
| 22.7% | 45.5% | 31.8% | 27.3% | 22.7% | 50.0% |

○事前説明会への意見

- ・CSWの方との座談会で活動の様子を詳しく聞くことができよかったです。時間があればローテーションで他地区のCSWさんとも座談会ができればと思います。
- ・今回の様に座談会形式をとった場合、単に座って講義を聴くだけに比べて参加者間の親睦が深まるのみならず活発な討論の場として有効であると考えます。
- ・社会福祉協議会がどのような活動をしているか分かって勉強になりました。福祉は市の仕事だと思っていたのですが、実際に現場に入って活動しているのは地区福祉委員会の方やCSWさんであることを知り、驚きました。こうした地域福祉活動を、もっと多くの職員に知ってもらいたいと思います。
- ・日程調整の関係上、仕方がないことだと思いますが、せっかくの講義と実習の間が1か月以上あいてしまったのが少し残念でした。より近い日程で連続して受講できたほうが、より一層理解が深まったと思います。
- ・座談会形式でCSWの方に活動内容等を直接お聞きすることができ、大変有意義でした。
- ・講義だけでなく、直接CSWの方と座談会で地域福祉活動の内容について話を聞いたのがよかったです。
- ・講義後のグループ討議がよかった。各職場の現状を知りえたこと、社協さんの現場の話を聞いたことが、今後の業務に生かされると思う。
- ・社会福祉協議会の方と直接お話しができる座談会があり、色々なお話が聞けてよかったです。

(2) 体験実習について

☆今までの地域福祉活動への参加 あり 3人・なし 22人

※感想については参加した地域福祉活動の参加報告にそれぞれ記載しています

★今後、参加してみたい地域福祉活動はありますか

- ・ふれあい昼食会 3件
- ・高齢クラブ活動
- ・声かけ・見守り活動
- ・世代間交流活動 2件（うち、1件は西山田地区福祉委員会）
- ・スポーツ活動に関する地域福祉活動
- ・自治会単位の活動
- ・子育てサロン、いきいきサロン（今回はそのうち一つしか参加しなかったため）
- ・障がい者（児）交流事業
- ・CSW や民生・児童委員・地域包括支援センター・生活福祉課のケースワーカーなどの福祉の第一線で活動している方に1日随行する。仕事の内容や相談内容について理解を深めたい。また、市民の方がどのようなことに困っているのか知りたい。

(3) 研修全体について

- ・今回の研修の中で、地域の活動はもちろん、社会福祉協議会とのつながりも知ることができました。市、社協、地域の連携が密になることで、より地域福祉活動が活発になればと思います。
- ・人間関係が希薄化するなかで、いきいきサロン・子育てサロンなど、気軽な参加を通じて、市民が他人や市職員と交流の図ることができるこのような企画は、今後ますます重要度を増すと思います。
- ・講義と体験学習がセットになっているのが良かったです。講義で社会福祉協議会やCSWについて学び、体験学習で具体的な活動内容を知ることができました。体験学習に行った時、地区福祉委員さんたちが暖かく接してくれて、市の支援に期待していることを言ってくれたことが嬉しかったです。
- ・現場を体験できてよかったです。色んな方に経験していただきたいです。
- ・日頃接することのない、子育て分野について吹田市の取組を今回知ることができ、地域福祉についてより広い視野で今後の業務の中で考えていくことができるきっかけになったと思います。参加してよかったです。ありがとうございました。
- ・行政、民間団体、地域がそれぞれの役割を果たすことにより、このような体験実習が実現できたのだと思います。とても貴重な機会となりました。私の部署でも何か関わることがないか今後アンテナを張りめぐらせておきたいと思います。
- ・地域福祉計画の実施には、地区福祉委員会が重要な役割を果たしていく必要があると思いました。ただ、地区福祉委員会が十分な活動をしていくためにはもっと若い人が活動に参加できるように環境を整える必要があると思います。
- ・講義の後に実際に現場を見ることはとても有意義だと思います。

- ・講義と体験実習が組み合わさっていることで、内容を深く理解することができ大変有意義な研修でした。現在担当している業務においても、今回学んだ内容について生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。
- ・自分自身が地域社会とあまり関わらない生活をしていたので、今回仕事とはまた違った福祉のありかたを感じることができて、非常に有意義でした。
- ・技術職員では、福祉活動に直接関わる機会があまりないので新採研修以外でもこういう場があるのは良いと思います。
- ・講義だけではなく、活動を体験できよかったと思います。
- ・来年も是非参加したいと考えています。ありがとうございました。
- ・地域の方と協働できる一工夫があればいいのではと思いました。
- ・普段の業務に直接関係のない分野であっても、研修に参加することで、視野が広がり、業務においても柔軟な対応ができるようになると思いました。
- ・吹田の地域福祉活動を体験できる良い研修だと感じました。
- ・今後も続けていくべき研修であると思う。
- ・とても勉強になりました。様々な部署の事業とつながっているということなので、もっとたくさんの職員にもこの研修を知ってもらえればと思います。
- ・社会福祉協議会と、これを期にさらに連携を深め、市民のニーズに応えられるよう努めます。勉強になりました。
- ・職員自身も地域住民である。職業から福祉の視点を持ってしかるべきものと考え、全職員に向けてアンケート調査を実施してほしい。設問内容は、「地域福祉活動の参加(ちょっとしたことでも)の有無」「参加している活動の内容」「参加したきっかけ」「参加しない理由」等々。また、体験実習に参加した職員に向けての後追い調査も実施してほしい。その後の変化を見てみたい。この体験実習の効果を探るものである。以上よろしくお願いします。
- ・体験実習が1時間ほどであったので、もう少し参加したかったです。
- ・地域で活動する場に参加する研修がなかなかないので、非常に意義のある研修だと思います。
- ・地域の方たちがどのように関わっておられるのかを実際に見ることができて良かったです。
- ・地域福祉活動計画や、CSW など、詳しく内容を知らなかったので、今回の研修に参加できて良かったです。